

石原運輸

クラウド管理が有効

【北海道】石原運輸（高橋典男社長、北海道小樽市）は、デジタルタコグラフとクラウド型運行管理システムを活用した省燃費運転を推進している。

管理の効率化と燃費向上を目的に2005年にデジタルタコ、09年にクラウド型の運行管理システムを導入。

二つの機器を連動させることで運転・休憩時間などの労務管理やスピード、エンジン回転数などの記録を一括管理できる環境を整えた。

高橋社長は「正直、『見

てる化』を図ることで自分

たちに足りない部分があったら、デジタルタコグラフとクラウド型運行管理システムを活用した省燃費運転を推進している。管理の効率化と燃費向上を目的に2005年にデジタルタコ、09年にクラウド型の運行管理システムを導入。二つの機器を連動させることで運転・休憩時間などの労務管理やスピード、エンジン回転数などの記録を一括管理できる環境を整えた。

当初は、運転データが自動取得されることに対し、ドライバーの反発もあったという。しかし、デジタルタコの評価ランキングを社内に貼り出し、月間と年間の省燃費運転表彰を設けたことでドライバーの意識が変わっていった。



「評価ランキングで意識が改善」と高橋社長

「見える化」燃費3割向上

「不思議と最初、嫌がっていたドライバーほど良い成績を残すようになった。今では安全運転と共に、エコドライブにも確実に成果を上げている。データも大事だが、全ては現場とのコミュニケーションの上で成り立つ」と強調する。

そして、取り組み開始1年目から効果が表れ、年々燃費が向上。現在は全員が最高のAランクを記録し、システム導入前と比較すると年間の燃費が30%向上した。またエコドライブが浸透したことからスピード、車間距離が保たれ事故の抑制にもつながっている。

「燃費向上を目的に始めた『見える化』だったが、省燃費運転で車両やタイヤが長持ちするようにもなった。今後の燃料や車両に掛かるコストとトラックに求められる安全・環境、コンプライアンス（法令順守）の面からも、得られるものは大きい。企業として地域に貢献できるよう、一層掘り下げて取り組んでいきたい」（北原 進之輔）